

英単語の効果的な暗記方法

英語班 倉本有加里 田端陽光 檀野汐里
森明日香 安田侑加

1. はじめに

今日、英単語の学習方法は多様化し、様々な方法が用いられている。しかし、実際に効果のある学習方法とはどのようなものなのか。私たちは英単語の長期的な定着という観点から、これを探ることにした。

2. 調査内容

- (1) 被験者24人を学力差が出ないように、3つのグループ（A, B, C）に分ける。
- (2) 20個の英単語を、グループAには単語とその日本語訳、グループBには単語が含まれるフレーズとその日本語訳、グループCには単語が含まれる文章とその日本語訳を用いて学習してもらう。
- (3) 1週間後に1回目の確認テストを行う。
- (4) 1回目の確認テストから2週間後、2回目の確認テストを行う。（尚、この間の2週間は単語の勉強はしないものとする。）
- (5) 得点から見たグループごとの定着率を算出する。

3. 仮説

1回目の確認テストでは短期記憶と覚えやすさの点から、英単語と日本語訳を1対1で覚える方法で学習するグループAが最も得点率が高く、2回目の単語テストでは長期記憶とそれに影響する認知的負荷の点から、20個という単語数に適度な認知的負荷がかかると考えられる、フレーズで学習するグループBが最も得点率が高くなると考えた。

4. テスト結果

1回目の確認テストではグループA、グループC、グループBの順に得点率が高くなり、2回目の確認テストではグループCの得点率が最も高く、続いてグループAとグループBの得点率が同じであった。

得点差からみた英単語の定着率は文章で覚えたグループC、フレーズで覚えたグループB、単語のみで覚えたグループAの順に高くなった。

	1 回目テスト平均	2 回目テスト平均	得点差
単語(A)	9.625	7.825	-1.8
フレーズ(B)	8.875	7.875	-1
文章(C)	9.375	9.125	-0.25

図 1 テスト結果表

5. 考察

文章での英単語学習は単語・フレーズでの勉強に比べて時間がかかる。また、文章を用いて学習する場合、単語を覚えるときにその単語が含まれている全体の文章の構成も考えながら暗記しなければならないため、文章での暗記では認知的負荷が3グループの中で最も高くなるため、長期記憶にとどまり、定着率が最も高くなったのではないかと考察する。

また、t検定を行ったところ、単語で学習したグループAの結果のみに有意差があったため、単語のみの学習では、ほぼ必ず2回目のテストで得点が落ちることが明らかになった。一方、有意差がみられなかったフレーズで学習したグループBと文章で学習したグループCでは必ずしも2回目のテストで得点が落ちるとはいえず、得点の維持や向上もあり得ることがわかった。

6. 課題

今回の調査では単語数が20個と少なく、結果にもあまり差がみられなかったため、単語数を50～60個に増やし、変化を考察する必要があるのではないかと考察する。

音声教材を暗記に用いた場合、どのような結果になるかについてさらに実験を行いたい。

7. 参考文献

ELEMENT English Communication II (啓林館)

平井明代 (1994) 「単語リストによる語彙学習とその効果」